

令和4年度 第1回

社会福祉士養成科 教育課程編成委員会 報告書

開催日時：令和4年10月7日（金）15：00～16：30

場所：zoom 形式

参加者名

- 委員 藤井 亘 （東京都自立支援協議会 委員）
委員 小田 智雄 （社会福祉法人やまて福祉会 理事）
教員 秋山 雅代 （社会福祉士養成学科 学科長）
教員 片桐 正善 （社会福祉士養成科 科長）
職員 松丸 浩子 （事務局長補佐）
職員 松木 健太 （教務課）

欠席者名

- 委員 佐藤 初美 （NPO 法人 10 代・20 代のにんしん SOS 新宿 理事長）

議題：

1. はじめに

片桐教員より、改めて教育課程編成委員会の立ち位置について、共有があった。

本委員会は本校における教育カリキュラムについて、現場の声を聞き、今のニーズを反映させたカリキュラムに変化をさせていくことにある。1年過程という限られた時間の中で変更できる箇所には制限はあるが、ぜひ忌憚のないご意見をいただきたい。

2. 昨年度末にご意見をいただいたオープン講座について

松木職員より今年度実施中のオープン講座について、前期分の学生アンケート結果の共有が行われた。

〔前提として〕

- ・アンケート回答は16名（125名中）しか集まらなかった。そのため、あくまで一例としての回答結果という位置づけ。
- ・アンケート項目は①印象に残った講座／エピソードについて、②より知りたかった業界の話／こんな話が聞きたいという要望について、となっている。

①印象に残った講座／エピソードについて

児童相談所の方や、アルコールクスアノニマスの方など、ゲストスピーカーがお越しいただいた講座は強く印象に残っていた。また、講師の現場での経験談は授業とは異なり、教科書では学べない貴重な内容として印象に残ったようだった。

⇒学生はより現場の話は印象に残り、目指す姿を考えるきっかけにもなっている。

②より知りたかった業界の話／こんな話が聞きたいという要望について

現場で持つ案件数やどのような関わりをしたのかという体験談や、業界のコアな話、授業での学びがこういった場面で活かされたと感じたという話に興味が多いように感じた。

⇒①と同様、学生は現場の体験談に強い興味がある。今の学びと卒後を意識している学生も一定数いる。

<各出席者からの意見>

小田委員)

良い講座となっているのだろうと感じた。また、アンケート回答者は将来像を考える中で、知識を得ようとしている積極的な方だと感じる。実際の現場を知りたい（どういう仕事があって、どんな方がいてどのような関わりを持って働くのか）という声もあるため、何か役に立てることがあればお声かけいただければと思う。

藤井委員)

現場の様子が垣間見れるものは学生もイメージがしやすいのだろうと感じた。色んな現場があることを知ってもらって、視野を広げてほしいと思う。また最近、ヤングケアラー協会の代表とお会いする機会があったが、Slack というシステムを使って、ケアラー同士が相談できる場所を作ったりしているという話を聞いた。今年度のオープン講座の内容にもなっているが、本校にお繋ぎすることも可能ではないかと思う。

また回答率の低さについては何か改善策はあるか。

松木職員)

回答率については改善が必要と考えているものの、まだ明確な答えを出せていない。引き続き検討していく。また、アンケートの結果よりゲストスピーカーの講座を増やしていこうという声が会議でも上がっている。

秋山教員)

社会福祉士養成・精神保健福祉士養成の昼間部の学生を中心に 50 名強の学生が参加している。入学者の多くは地域共生社会、地域包括ケアという言葉聞いたことがある。そのため、どのように関わっていくかということが求められているのだと感じる。

片桐教員)

近年は“社会福祉士・精神保健福祉士とは”ということを知らずに、想いだけで入学される学生もいるため、ただ現場の方を呼べばよいというわけでもないとも考えている。強い思想に惹かれ、学生は異常なまでに惹きつけられることもあるため、距離感が大事になる。とはいえ、十年来の友達にお越しいただき、お話してもらったがその姿を見ると良い機会となったと感じた。

<欠席された委員からの意見>

佐藤委員)

学生にとって各分野の現場は未知の世界で、想像を超える実態や仕事内容を知ること、学習へのモチベーションを高める効果と入学時明確でなかった自分の将来像をイメージする

貴重な機会になったと感じる。ぜひ幅広い分野の現職のゲストスピーカーや、先生方の忌憚のないお話を学生へ伝えてほしい。

3. ディプロマポリシーについて

片桐教員より、本学科におけるディプロマポリシーについて共有が行われた。

幅広い教養と専門知識、技術、態度を身に着け、これらを社会科学的な理論と職業倫理観に基づいて適切に活用することに加え、これまでの社会人キャリアを踏まえ、新たなる社会の構築のための創意工夫ができるようになることを意識し、下記のポイントを置いている。

1. 専門知識・技術の活用力
2. コミュニケーションスキル、多職種連携・協働力
3. 問題発見・問題解決力
4. 主体的・自立的に意欲を持って行動・実行する態度
5. 人間性と職業的倫理観に裏打ちされた対応力

<各出席者からの意見>

藤井委員)

アセスメントやフェイスシートを使って、広い視野で深く知っていく力は求められている常々感じる。ディプロマポリシーに記載のある項目はどれも大事なスキルだと思う。実際にソーシャルワーカー（相談援助）として業務にあたっていれば、活かすこともできると思うが、障害施設の現場を見ていると、すべてのスキルを活かしきれていないと感じることがある。

小田委員)

法人の中でも理念や倫理はあるが、ディプロマポリシーのような指針を出そうという話が出ていたところ。入職時に目指す方向性や意識は持っていたとしても、業務が多くなると意識が薄れていく傾向がある。このような指針のようなものが明確になっていると良いと感じた。

<欠席された委員からの意見>

佐藤委員)

ディプロマポリシー3や5の理解を深めるには、自己覚知が大前提になると考える。演習の中で、学生同士お互いのいいところを見つけをし合い、ほめられる、認められることを照れずに受け入れる体験はは一層重要になるかと思う。

秋山教員)

本校の入学者は大卒や社会人経験の短い若い学生が多く、近年はコロナ禍ということもあり、「コミュニケーションスキルを高める」、「チームワークを高める」といった機会が少なかった方が多い。こういったスキルを法人としてはどのような教育を行っているか参考までにお聞かせいただきたい。

小田委員)

現場に出る前に理念や、外せない重要なポイントの教育は行うが、基本的には OJT での教育がメインとなっている。

藤井委員)

オンラインで研修を行う施設もあると聞く。研修の内容もレクリエーションをメインとし、その中でコミュニケーションスキルや企画力、問題提起できるような要素を取り入れて何度か研修を組んだという話を聞いたことがある。

<欠席された委員からの意見>

佐藤委員)

自己覚知を常に行うことで、相談者それぞれに応じた寄り添い伴走ができる支援者になりますので、毎月行う相談スタッフ定期勉強会で重視し取り組んでいる。

松木職員)

次回委員会の際に、可能であればレクリエーションの中に組み込んだ内容について確認ができれば詳しく伺いたい。また、法人内で行っている研修が、本校ディプロマポリシーのここにあたるというものがあれば、ぜひ共有いただきたい。

4. まとめ

- ・オープン講座については今回いただいた意見をもとに、担当会議体へ落としていく。現場の声を聞く機会は求められているが、それにより過ぎないよう構成は検討する必要がある。また、アンケートの回答率を上げる方法は検討を続けていく。
- ・ディプロマポリシーについて社会のニーズを大きな相違はないが、このディプロマポリシーを教職員、学生も含め全員が意識しながら学び続けていくことが重要。
- ・コロナ禍においてコミュニケーションスキルの低下がみられる。ここを底上げしていく施策については検討していく必要がある。

次回委員会開催日：2月17日 15:00～

以上